

# 修士論文研究余話

## 牛窓五香宮と神功皇后

花谷 美紅



(ノートルダム清心女子大学大学院 文学研究科  
日本語日本文学専攻 博士前期課程)

〈はじめに〉

牛窓の神功皇后伝承を研究テーマに決め、岡崎義弘宮司にお会いしたのが二〇二〇年の六月のことでした。快く研究にご協力いただき、また、貴重な史料をお見せしていただきました。その後も、東原和郎様、郷土史家の金谷芳寛様といった方々をご紹介いただき、貴重なお話を伺わせていただきました。残念ながらコロナ禍ということで祭礼も開催を断念されており、来年度は開催されることを願っております。

今回、岡崎義弘宮司より寄稿のお話をいただき、僭越ながら書かせていただきました。皆様が牛窓と神功皇后伝承について少しでも興味を持っていただけますと幸いです。

牛窓五香宮は、寛文七（一六五七）年に池田光政が京都御香宮を勧請したものです。その後、岡山藩関係者によって信仰されてきました。享保年間（一七一六年～一七三五年）には、池田政晴と当時の藩主・池田継政が神宝を上覧していることが、『牛窓神社文書』『五香宮記録』に残っています。五香宮に伝わる神宝のうち、何を見たかは記録に残っていませんが、以下の資料のように、政晴（資料中「丹波守様」）の上覧が五月五日、端午の節句に行われていたことを考えると、神功皇后の「武運長久」という面に期待してのことであったと思われる。

享保十四年酉五月五日宝納歳号御直筆也

丹波守様 神宝御上覧并御絵馬 御掛被為遊候

文山筆 金子頂戴仕候 「五香宮記録」

さらに、以下の資料のように、元文四（一七三九）年には、継政の母である栄光院が神宝を上覧し、神功皇后の腹帯の切れを授与されています。

元文四年未九月廿日 酒折宮拜殿二大机ヲ立、其上ニ

御神宝得り、栄光院様入御上覧ニ申候。相済申候而、

御腹帯ノ切レ頂戴被成度ト、佐々重左衛門殿より御申

指上可然との御仰ニ付、安産の御守等一所ニ指上申候。

〔後略〕 「五香宮記録」

元文四（一七三九）年九月、酒折宮（岡山神社）において、栄光院（池田綱政側室・継政母）が御神宝を上覧した記録です。上覧の後、「御腹帯ノ切レ頂戴なされたき」とい

う申し出があり「安産の御守等」とともに授与したことも記録され、元文年間には神功皇后の腹帯を安産の御守として授与していたことが確認できるのです。

神功皇后の腹帯を御守として授与していた記録はほかにもあり、栄光院の上覧から十年後の寛延二（一七四九）年には、池田宗政とその正室にも安産の祈禱を執り行い、腹帯の切れを授与しています。

また、以下の資料のように、寛延四（一七五二）年には池田宗政の側室が懐妊したことで、五香宮側から「腹帯を授与したいのですが」と申し出ていました。

奉覧上

一、政所様御懐胎被為遊、乍恐奉恐悦候、去、年御前様江神功皇后御腹帯御守指上申候、任御吉例ニ、此度政所様江、右御腹帯御守奉指上度、此段奉覧上候。已上

寛延四年未十月八日

井上丹後

御願申

〔五香宮記録〕

光政による勧請以降、藩主である池田家には神功皇后と五香宮に対しての信仰が存在していたと考えられます。しかし、民衆には浸透していたのでしょうか。五香宮は元文四（一七三九）年に岡山城下で神宝の開帳を行いました。このことは倉地克直氏がすでに指摘されていますが、開帳は「殊外不繁昌」に終わり、当時はまだ神功皇后伝説が十分に浸透していなかったようです。

一方で、元文四（一七三九）年には五香宮が民衆に向けて、神功皇后伝説と神宝の存在、「武運長久」と「安産」の利益を広めようとしていることがわかります。神功皇后の安産の利益は、京都御香宮では当時あまり語られていませんでした。幕府との関係を重視していたことから、主に武運長久・鎮護国家の利益が語られていました。それに対し、民衆へ安産や瘡瘡除けの利益を語っていたのは「桂女」という女性でした。桂女と安産とが結び付けられ、民衆に対して認知されていたとされる史料の登場は、宝暦二（一七五二）年のことでした。

牛窓五香宮の行った神宝の開帳という活動は、神功皇后伝承を広めようとした点、ならびに、京都御香宮や桂女よりも早く始められている点が注目されます。また、牛窓神社側が主体となっており、行っていることから、牛窓の地における独自性を持ったものであったと考えられるのです。

1 『牛窓神社文書』『五香宮記録』は、貞享三（一六八六）

年正月から寛政三（一七九二）年の記録が記されている。

2 倉地克直「近世日本人は朝鮮をどうみていたか」「鎖国」のなかの「異人」たち、二〇〇一年、角川書店

3 小阪奈都子「近世における桂女の実像とその由緒」『女性史学』二四号女性史総合研究会、二〇〇四年）ほか参照。